

第19回海洋立国推進功労者表彰受賞者

1. 海洋立国日本の推進に関する特別な功績 分野

科学技術・学術・研究・開発・技能 部門

氏 名	さとう しんじ 佐藤 慎司	年齢	67	
所 属	高知工科大学 システム工学群 特任教授			
功績の概要	海岸の侵食機構解明や気候変動対応等、 海岸保全対策に貢献			
功 績 事 項				

40年以上の長期にわたり、長期的な海岸変形・侵食機構の解明、流砂系の土砂管理と環境保全対策等の基礎研究、津波・高潮の防災や沿岸域の環境保全など現実社会の課題解決に資する研究活動に取り組み、海岸工学の発展や各地の海岸保全対策の推進に貢献した。

1. 海岸における侵食機構の解明やその対策、気候変動下における津波・高潮からの防災、沿岸域の環境保全など海岸工学の中でも幅広い分野で多くの先駆的な研究成果を上げている。また、海岸や防災をテーマとした各種シンポジウム等での講演や著書を通じて研究成果の普及や意識啓発にも取り組んでいる。
2. 令和4年には UAV を用いた高頻度の現地観測から砂礫海岸における土砂の移動メカニズムを考察した論文を公表し、土木学会の海岸工学論文賞を受賞するなど、近年においても、その研究成果は高く評価されている。また、土木学会海岸工学委員会の「Coastal Engineering Journal」において多数の論文発表を行い、平成28年に「CEJ Best Citation Award」を受賞したほか、米国土木学会主催の海岸工学国際会議等の国際学会において多数の研究発表を行うなど、国外への研究成果の発信も多い。
3. 国土交通省が設置した「気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討委員会」の座長を務め、今後の海岸保全のあり方や海岸保全の前提となる外力の考え方、気候変動を踏まえた整備手法等について提言をとりまとめた。この提言を踏まえ、国土交通省及び農林水産省は、海岸法に基づく海岸保全基本方針を変更しており、佐藤氏の貢献により国内における気候変動を踏まえた海岸保全の大きな方針が定まった。
4. 東日本大震災を受けて設置された国や土木学会等の委員会に数多く参画し、海岸堤防の設計津波や粘り強い海岸堤防の考え方、津波防災地域づくり法に基づく各種施策の技術基準のとりまとめなど、海岸行政の大転換にあたって多大なる貢献をされた。

気候変動を踏まえた海岸保全への転換

